

昆虫の保全と利用・環境評価による 地域社会への貢献

昆虫の研究と地域社会貢献の背景

京都は歴史ある都であり、伝統と文化を大切にするとともに、近代化の中では先端的な技術を生み出し、人々は季節の移り変わりを、日々の生活で感じ自然と共生してきました。本学の在る松ヶ崎周辺の北山には、五山の送り火の「妙・法」が灯る西山と東山、宝ヶ池や深泥池などがあります。北山周辺は、市街地に近いながらも豊かな里山の自然が残されています。この環境には多くの生き物たちがくらし、身近に自然を感じることができます。

また、本学には上賀茂本山に環境教育研究の野外実習場として 2007 年から整備されたエコフィールドがあり、里山を代表する動植物が数多く生息しております。ヤママユガ科に属する大型絹糸昆虫の飼料樹も自生しており、現在、ヤママユ *Antheraea yamamai* をはじめ、シンジュサン *Samia cynthia pryeri*、オオミズアオ *Actias aliena* などの野外放飼育などが行われ、京都市産ヤママユガ科類の系統化に成功しています。2011 年から里山の虫たちを代表するヤママユの本格的な飼育を実施して、里山の環境を教育研究に生かすプログラムを進めています。

「京都北山やままゆ塾」

2011 年 4 月に「やままゆ塾」を開設して、(1) 北山の自然とふれあい、環境をみつめ、(2) ヤママユなどの虫たちを育てることで命の大切さを知り、(3) 地域コミュニケーションを活かしながら、環境教育・環境学習を展開しています。



身近な自然に親しみ、環境を見つめる

近代化とともに私達のライフスタイルも変わり、今日では快適な生活があたりまえのものとなっています。今日地球規模で広がる温暖化や異常気象、環境汚染や破壊などの多くの原因は、我々人類にあるのかもしれませんが。今一度、身の回りの自然に目を向けて、生き物から、学ぶ姿勢が必要です！

虫たちの成長から生命の大切さを知る

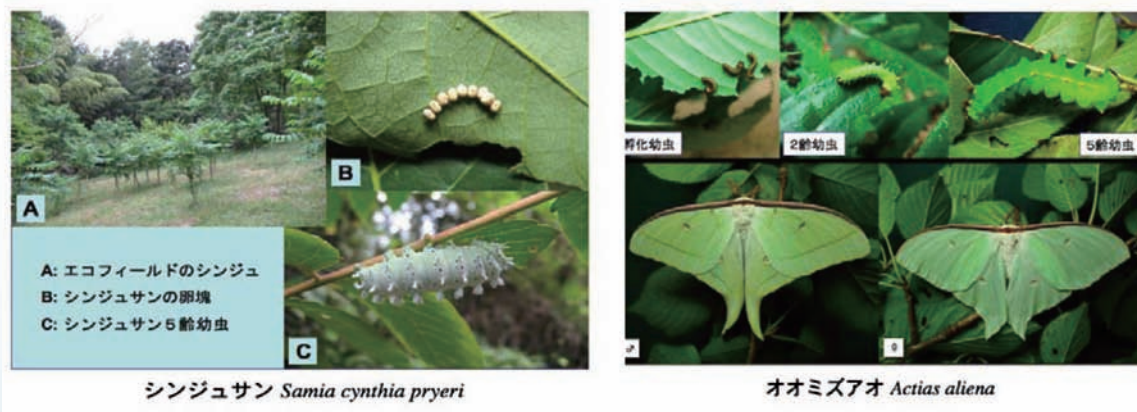
私達の身近な自然「里山」には、多くの生き物がくらしています。北山の自然の中でくらす多くの生き物の姿を見ることで、豊かな自然の恩恵と厳しさを学びます。「やままゆ」を育てることで、生き物の成長と生命とは何かを考えます。

自然との対話と地域コミュニケーション

「やままゆ塾」の活動では、地域の方々とのコミュニケーションをはかり、環境を守る気持ちと地域の豊かな未来につなげる活動を展開します。自然とのふれあいの場として地域環境の現状と将来に対して、保全活動を展開します。

京都市産ヤママユの活用

北山周辺には日本固有のヤママユをはじめとした多くの昆虫種が生息しています。中でも、ヤママユの絹糸は「繊維のダイヤモンド」と呼ばれ、希少性と独特の機能性から貴重な遺伝資源であり、新たな京都ブランド創生のための生物素材として活用していきます。



研究者

京都工芸繊維大学
大学院工芸科学研究科
応用生物学部門
昆虫生理機能学

准教授 齊藤 準

研究テーマ

植食性幼虫の体色発現機構の解明
色素および色素結合タンパク質の生理機能の解明
幼虫組織タンパク質のリサイクルシステムの解明
昆虫生理機能学、資源昆虫の機能に関する研究
昆虫の適応と生存戦略に関する研究